

現場突撃型ローカルマガジン

なかもの がた) 2

始める、受け継ぐ、味わう。

ここから始まる小さな冒険

～南加茂台で描く、私の新しい日常～

大学生と一緒に！リノベーション！

～大学生と協力隊がつくる、未来のまちの一品～

南加茂台で育った味、ここに

～まちと一緒に歩むコーヒー屋～

気まぐれ日記

～商店街のたばこ屋さんにお会いに行く～



始める

ここから始まる小さな冒険

く南加茂台で描く、私の新しい日常く



Born

神戸市



南加茂台

Based



日常の中にちょっとした
ワクワクを!!ふと立ち寄り
たくなる場所に。。 さち



山城ガスセンター いづつや
ふくい さいち さん

「いらっしやいませ!」

南加茂台のガス屋、いづつやの店先に立つと、店主の妻である幸さんがにこやかに迎えてくれました。どこか懐かしい空気に包まれた店構え。その奥には、地域とともに歩んできた暮らし、そして新しい挑戦が息づいています。

見知らぬまちで始まった暮らし

南加茂台が誕生して20年ほど経った頃、私は神戸からこのまちへ嫁いできました。右も左も分からない中、夫の実家であるガス屋の事務を手伝いながら、地域の暮らしを少しずつ覚えていったんです。合間には、色彩検定や整理収納アドバイザー、アロマ生活アドバイザーなど、いくつもの資格も取得しました。「まずは家族のために、そしていつか、誰かの役に立てたら」そんな思いで勉強を続けてきた日々。そうして暮らしの基盤を築くうちに、次は「地域のためにできること」に気持ちが向いていきました。その最初の一步が、いづつやのリノベーションだったのです。

倉庫から始まったリノベーション

代々続くガス屋の家業は「変えることのできないもの」だと思っていました。けれど、そのままにしておくのではなく、自分ができる小さなことから挑

戦しようと思ったのです。最初に手をつけたのは2階の倉庫。30年以上もの間、物で埋もれ、薄暗くほこりに覆われたその空間は、初めて足を踏み入れたとき、階段を上るのも怖いほど不気味でした。片付けに挑んでは途中で挫折し、また思い直して再開する…。そんなことを繰り返しながら、一人で整理を進めていったのです。

トイレ改修から広がった未来

転機となったのは、昨年の春。*ステップアップ補助金を活用してトイレを改修したことでした。思いがけないきっかけから、片付けを本格的に進められるようになったんです。掃除をしてみると、「ここって結構使える場所なんだー」と新しい視点で空間を見られるようになり、やがて「レンタルスペースにしよう」と決意しました。「ここを宝箱のような空間にしたい…そんな思いを胸に片付けを進めていくと、不思議と自分の気持ちまで整理されていくのを感じました。」

*ステップアップ補助金：

木津川市内の中小企業や個人事業者が、経営改善、販路拡大、創業準備などに取り組むときに、木津川市商工会が費用の一部を補助してくれる制度。

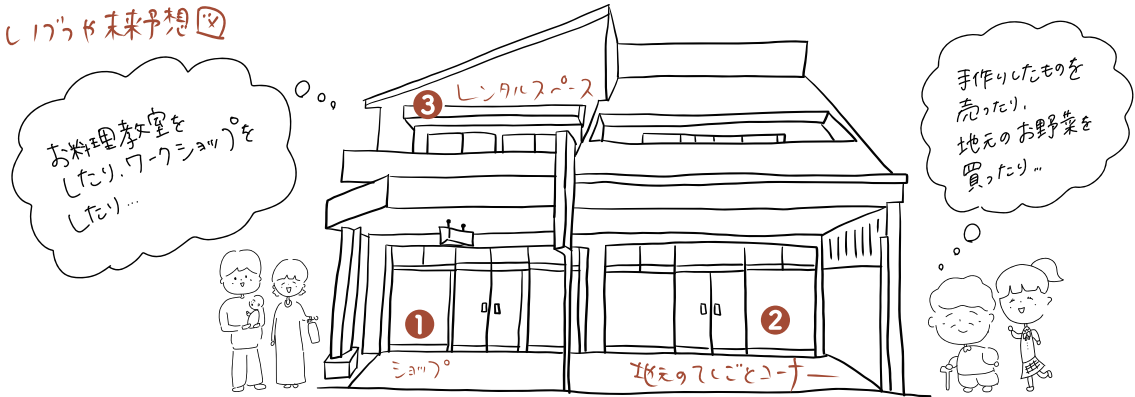


新しい挑戦の場に

ただのお店ではなくて、
どんな場所に？

これまでは商品を1階に広げて並べていましたが、①「ショップ」としてひとつにまとめ、すっきり見やすくしたいと思っています。ただ物を売るだけでなく、「ここに来れば何か楽しいことがある」と感じてもらえる空間にしたいんです。そこで②「地元のでしごとコーナー」を設け、地元のお店の商品や手作りのアークセサリーを置いたり、小さなマルシェを開いたりして、人がふらっと立ち寄れる場所にしていきたい。さらに③「レンタルスペース」もつくり、キッチンを使った料理イベントや、資格を活かしたワークショップも開けるようにします。この空間を、「資格はあるけど活かす場がない」「お店を持ちたいけど一歩が踏み出せない」という人たちが気軽に挑戦できる場にしたいんです。お店の前にはロータリーがあり、買い物帰りの人、公民館やデイサービスに来た人、子どもたち…いろいろな人が自然に立ち寄れる環境があります。その一角に小さなコミュニティの場があれば、日常の風景が少しにぎやかになって、彩りが増すのではないかなと思っています。

しづか未来予想図



まさに新しい色を添えて

少しずつ形になってきた、いづつやの新しい空間づくり。そんなときに、「ここでマルシェを開いてみたい」という方が現れました。まるで偶然が導いたような、うれしい瞬間でした。こうして11月、「つながるマルシェ」がおこなわれることになったのです。

ライティング・コミュニケーションとして取材をしながらその変化をそばで見ていると、いづつやがまた新しい一歩を踏み出そうとしているのだと実感しました。

幸さんの挑戦が、まさに新しい色を添えていく。通りを歩く人が「あ、ここで面白いことをやっている」と足を止める日を、私も楽しみにしています。

栗本

大学生と一緒に！リノベーション！



— 大学生と協力隊がつくる、未来のまちの一品 —

南加茂台に惹かれた2人の大学生と、地域おこし協力隊の私。「いつつや」の倉庫を舞台にしたリノベーション体験は、まちの未来を見つめる時間でもありました。あの日の手ざわりや会話を、ひとつのレシピに見立てて綴ります。



人物紹介



Based

木津川市

けいご

所属：いつつや（住宅設備・修繕を担当）

趣味：ギターやベースなど、音楽

お客様の要望を聞き取り、その人にとって最も良い形を作ることを大切にしている。コツコツと手を動かすことが好き。地域おこし協力隊を中心に活動するバンド「ながも音楽隊」のメンバーでもある。



Based

宇治市

しゅん

所属：近畿大学 建築学部

趣味：音楽、写真、ものづくり

駅や学校、建物の中にある家具などの日常の空間を「人が集まれる場所」にできないか考え、新しい可能性を探求している。家に工具はたくさんあるけれど、今回がその初出番。



Based

堺市

しょうい

所属：近畿大学 建築学部

趣味：料理、アイルランド音楽、ものづくり

建築やデザインを通して「まちづくりの面白さ」を探している。地域おこし協力隊と一緒に木津川市内で音楽活動をするうちに南加茂台が気になり、今回のリノベーションに参加した。

1

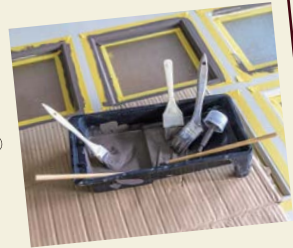
作業レクチャー

道具や手順を教わる。



南加茂台リノベーションレシピ（4人分）

- | | |
|-----|---|
| 倉庫 | 1つ |
| やる気 | 4人分 |
| 遊び心 | 4人分 |
| 工具 | ・はけ
・ペンキ受け皿（4つ）
・マスキングテープ（ドア養生用）
・下塗りシーラー（下塗り塗料）
・ペンキ（お好みの色）
・インパクトドライバー（1つ） |



大工さんの知恵 ひとつかみ
休憩のおやつと水分 少々

2

マスキング

塗らたくない部分にテープをはる。



こんな空間なんだ〜

うらばなし

いつつやスタッフのけいごさんは、ゴリゴリのギタリスト。

撮影：岩井由美（木津川クリエイター部）

3 ペンキ塗り

指定箇所を丁寧に塗る。

隙間まで丁寧に...



4 マスキングはがし

ペンキが乾いたらテープを慎重に剥がす。

マスキングだけを専門に担当する仕事があるくらい、大切な役割なんだよ。



ダンボールに剥がしたマスキングテープをくっつけていくと剥がしやすい!!

5 パーツ取り付け

外していたドアノブやネジを取り付ける。



6 ドア取り付け

ドアを元の位置に戻して固定。



「いづつや」のリノベーションは、まだまだ続く!

意外と難しいな。

『ガス屋は昔、宿屋だった?!』

ニュータウンとして誕生した南加茂台。その変化をずっと見つめてきた「いづつや」の店主・福井良さんと、地域おこし協力隊の私が、まちの思い出と日常を語り合いました。

協力隊 いづつやって、時代に合わせ役割を変えてきたんですね。

店主 そうやね。昔の本店は「船屋商店街」にあつて、南加茂台のいづつやは支店として45年ほど前にできたんですよ。ニュータウンができて、まだ周りが空き地ばっかりの頃やな。

協力隊 当時の南加茂台って、どんな雰囲気だったんですか？

店主 こどもの数がめっちゃ多かった。僕が小学校に入学したときは3クラスやつたのに卒業する頃には5クラスになったな。当初は空き地でボール遊びしたり、自転車で坂を駆け下りたり。ほんま、活気があつたわ。

協力隊 今の静かな雰囲気とはだいぶ違いますね。

店主 そう。今はお年寄りが増えて、空き家も目立つし、学校も一学年クラスしかない。寂しいなと思うときはあるよ。

協力隊 そういう変化をどう受け止めていますか？

店主 正直、「南加茂台は終わっていくんちゃうか」と思う瞬間もある。でもな、新しい魅力やコンテンツが出て、何かの化学反応が起きたらいいなとも思ってる。うちの奥さんがやろうとしてることとか、地域おこし協力隊が

来てくれることとか、それがきっかけになるかもしれへんし。

協力隊 地域の未来をあきらめるんじゃないなくて、できる範囲で動いてる感じですか？

店主 そうやな。僕は身の丈にあつた地域貢献をしたい。地元の祭りもやつてるし、商工会にも関わってる。そうやってると仲間も増えて、新しい風が吹くんよ。大儲けしたいわけじゃなくて、楽しくやれたらいいなって。

協力隊 いづつや自体についてはどう考えてますか？

店主 僕にとっていづつやは「守らなアカンもの」でもあるし、ちょっと「足枷」でもあるんよ。もつとやりたいことがあつたかもしれん。でも、ガス事業って人の生活に直結するやろ。ガスが使えてお湯が出る、これって「幸せ」じゃなくて「安心」やと思うんよ。テレビは見られんでも2日耐えられるけど、お湯が出えへんのは困るやん！(笑)

協力隊 たしかに(笑)。生活を支える仕事ですね。

店主 せやから「安心」を届けるんが自分の役割かなと思ってる。

協力隊 変わらないものはありますか？

店主 あるよ。お客さんが家族みたい

か？

あるよ。お客さんが家族みたい

に声をかけてくれること。今でも「良ちゃん、昔はかわいかったのになあ」と言われるし(笑)。そんな距離感

は変わらんでいいな。ちょっと電球替えてとか、ちょっとしたことでも頼んでもらえる関係がええと思う。

協力隊 最後に、いづつやをこれからどんな場所にしていきたいですか？

店主 もともと宿屋やったから、人が気軽に立ち寄れる場所やつたんよ。またそういう場所になったら、華やいで、面白いことが集まる場所に。僕自身、人の心を震わせたい、喜ばせたいって気持ちがあるから。エンターテイナーやな(笑)。

協力隊 なるほど！今日はありがとうございました。

*船屋商店街…木津川舟運で栄えた加茂地域の商店街。



HPIはこちら▽

プロパン販売業者
山城ガスセンター いづつや

やましろガスセンター いづつや

〒619-1127 京都府木津川市南加茂台5丁目12-1

☎ 0774-76-5055

🕒 9:00~18:00

🗓 日・月曜日・祝日

うらやまし

良さんは、
モノマネ名人?!

木の香りとコーヒーの香り

静かな道を、ゆっくり歩く

朝の光に手をのびし

かつて遊んだ角を曲がる

こども時代の笑い声が

そっと耳に届く気がする

南加茂台の時間はゆっくり流れる



ながもの音

詩：栗本幸音
作曲：高田かなで
撮影：河崎恭広(南加茂台在住)



△聴こえないね

味わう

南加茂台で育った味、ここに

くまちと一緒に歩むコーヒー屋



最高の普通
中山 修也



NAKAYAMA COFFEE ROASTERY

なかやま しょうや
中山 修也 さん

Born

八尾市

南加茂台

Based

南加茂台の静かな住宅街の一角に、小さなコーヒー店があります。店内で焙煎された豆は、木津川市のイベントでの移動販売や、カフェへの卸を通じて少しずつ広まり、多くの人に知られるようになりました。実は、この店の店主も生まれ育ったのはこのまち。地元根ざしたコーヒー店として、日々香りを届けています。

うらばなし

中山さんは昔、ラッパーだった。



通学路にあったお弁当屋さん

小学校3年生のとき、私は南加茂台に引っ越してきました。周りの友達は赤ちゃんの頃からここで暮らしていて、少し転校生のような感覚を覚えましたが、学校の裏山や竹藪、池など、自然の中で過ごした日々は今も記憶に残っています。実家は小学校のすぐ近く。

中学生になると、友達と歩いてお弁当屋さんの前を通りながら通学していました。その場所が、のちに自分のコーヒー屋になるとは想像もしていませんでした。

一杯のコーヒーから始まった物語

きっかけは、プレゼントでもらった豆とミルでした。自分で挽いて淹れてみると、想像以上においしい。いろんなお店の豆を試すうちに「焙煎もしてみたい」と思うようになりました。当時は



音楽活動をしながら工場場で働いていましたが、次第にコーヒーへと気持ちが向かっていきます。豆のラインナップを考えたたり、言葉を選んだりするのは、どこか音楽の表現に似ていて、自分にしっくりくるものでした。

まちの魅力とこれから

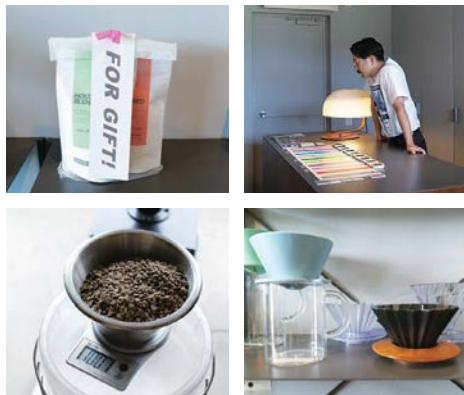
キッチンから通学路まで、 香りと夢の拠点

最初は実家の台所で、コンロに手回しの焙煎機を置き、ひとりで豆を回していました。煙が部屋に充滿して家族には迷惑をかけましたが、それでも焙煎の楽しさに夢中でした。やがて限界を感じ、空き店舗を探すことに。見つけたのは、通学路にあったあのお弁当屋さんの跡地でした。15年前、その場所を借りて焙煎所を始め、最初は作業場として使っていましたが、移動販売で得たお金を少しずつ備品やインテリアにあて、お店らしく整えていきました。「なぜここぞ？」と聞かれることもありましたが、住宅地の端にあるこの場所は煙の出る焙煎にむしろ都合がよく、少しずつまちに馴染んでいきました。



静かなまちに、ゆるやかな変化を

南加茂台は静かで心地よく、暮らしやすい場所です。ここで若い世代が暮らせば、特別なことをしなくても自然に面白いまちになっていくと思います。5丁目の商店街に並ぶ空き店舗も、若い人が挑戦できるトライアルの場になればいい。そんな願いを胸に、今日も豆を焼き、コーヒーを淹れています。



常連さんとまちのつながり

小学校の同級生のお母さんがふらりと訪れてくれたり、加茂に住む海外の方が立ち寄ってくれたり、顔なじみの人が常連になっていく姿に、この店が少しずつまちの一部になっているのを感じます。コーヒーは日常にあるものだからこそ、ほんの少し特別で、最高に心地よい「ふつう」を届けたいのです。



コーヒーショップ
NAKAYAMA COFFEE ROASTERY
ナカヤマコーヒーロースタリー

〒619-1127
京都府木津川市南加茂台9丁目15-2

☎ 090-5169-4420

🕒 11:00~18:00
(日曜のみ12:00~17:00)

🗓 月曜日



ながもを眺める

ながものマップ

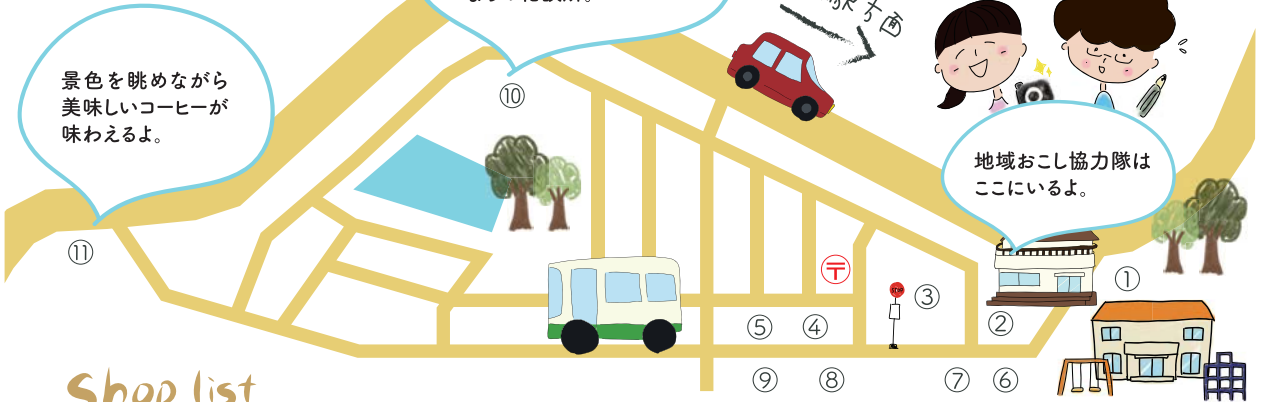
ここは、やさしい風が吹き抜ける丘のまち「南加茂台」。

坂道の先には、のんびりとした時間と、
みんなの笑顔が広がっています。

困っている人をみんなで
助けるために活動している
まちの相談所。

景色を眺めながら
美味しいコーヒーが
味わえるよ。

地域おこし協力隊は
ここにいるよ。



Shop list

- ①南加茂台保育園 ②南加茂台公民館 ③ダイエー グルメシティ加茂店 ④ショップむらた(たばこ屋) ⑤五丁目バン屋Pono
- ⑥ころばん塾・ワズホームフィジカルセンター ⑦ワズホームアクティブセンター・ケアセンター ⑧山城ガスセンター いづつや
- ⑨鶏焼肉居酒屋 維平 ⑩木津川市社会福祉協議会 加茂支所 ⑪NAKAYAMA COFFEE ROASTERY

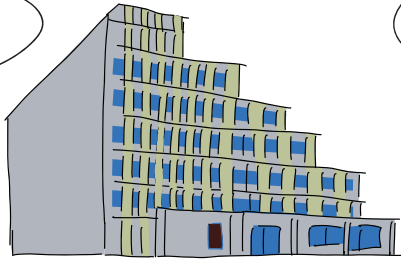
とるしちにち

地域おこし協力隊の

週のはじまり、月曜日。朝の空気を吸い込みながら、リュックを背負って「行ってきます!」。まず向かうのは木津川市役所です。ここでは担当の職員さんと、先週の振り返りや今週の予定を話したり、活動の相談をしたり。一週間のはじまりを、ここからスタートします。

8:00 A.M.

行ってきます!



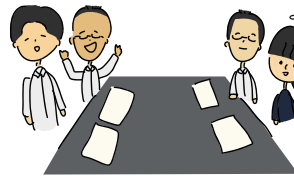
木津川市役所

今週の予定は
どうなってる?

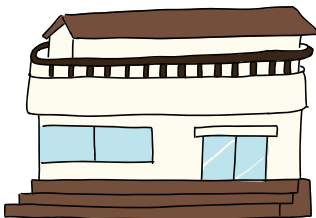
今週も頑張ろう~

おはよう
ございます!

9:00 A.M.
スケジュールの確認



火曜日からは
公民館をメインに活動!

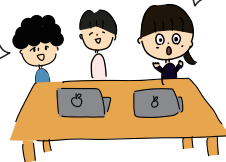


南加茂台公民館

このページ
の色変えて
みたら?

こういう機能が
あるんだよ~

いい感じになってきた。
ありがとうございます!



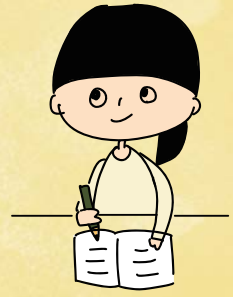
1:00 P.M. 「ながものがたり」のデザインを
木津川クリエイター部に相談



情報発信基地キチキチ

商店街のたばこ屋さんへ会いに行く

気まぐれ日記

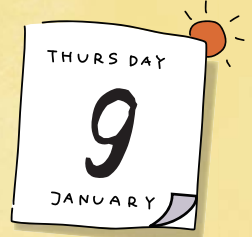


今日もたばこ屋さんの前を通りかかる。買い物はしなくても、おばあちゃんの言葉はついつい持ち帰ってしまう。これはそんな日々の小さなメモ。



「ながものがたり」第一号をつくるので、裏ページのマップにお店の名前を載せてもいいかどうかお願いしたら、快く「いいよ」と答えてくれた。

南加茂台5丁目の商店街にあるタバコ屋さんへ初めてご挨拶。店先にはいつもにこやかな和子さんがいる。



公民館へ急ぐ... 途中、お店の前を掃除する和子さんに遭遇。慌ただしい中で、心がふっと和んだ。



『ながものがたり』第一号が完成したので、できたてを届けに行った。手渡すと、和子さんは「まあ、嬉しい!」と笑顔に。その顔を見て、私まで嬉しくなった。



えっ! たばこ吸わないの!?

和子さんはタバコを吸ったことがないと知りびっくり。私も吸えないので、一気に親近感がわいた。

お店に立ち寄ると、昔はパン屋さんもしていたと教えてくれた。「新しいまちなら専業主婦の私でも挑戦できるかも」と始めたそうだ。仕入れから始まり、焼きたてのパンやサンドイッチまで。10年続けたと聞き、驚いた。



今日も店先には、変わらない和子さんの姿。立ち寄るたびに、少し元気をもらえる。私の日記は、またここから続いていく...



「隣は昔小さな食品店、向かいには自転車屋さん」昔の商店街はなんでも揃っていたという。向かいの「いづつや」がリノベーションをしている様子を見て「新しいことが始まるのは嬉しいし楽しみね」とにっこり。

ここは、木津川市・南加茂台。



木津川市は、京都府の最南端に位置するまちです。奈良時代には一時的に都・恭仁京（くにきょう）が置かれた歴史があり、今も名残が地名に残っています。一方で、新しいまちづくりも進み、古いものと新しいものが調和する場所でもあります。

その木津川市の南東部にあるのが、南加茂台（ながもだい）です。昭和54年から開発されたニュータウンで、これまでの約45年間に多くの人が移り住み、現在は約5千人が暮らしています。高齢化が進むなかでも、公民館では講座

やサークル活動がおこなわれ、地域の中には穏やかなつながりが続いています。

私たちはこの南加茂台を拠点に、「ライティング・コミュニケーター」として活動しています。地域おこし協力隊の一員として、まちの出来事を伝えるだけでなく、人の思いや日々の風景に耳を傾け、その言葉を自分なりに受け止めて発信しています。

与えられたミッションは「南加茂台の情報誌をつくり魅力を発信すること」。けれど、単なる情報誌ではなく、このまちで暮らす人の物語を届けたいと思い、「ながものがたり」という名前をつけました。「南加茂台（ながもだい）」で暮らす人たちの「物語（ものがたり）」を、取材や交流を通して紡いでいく。私は、誰かの当たり前に価値を見つけることを大切にしています。

『ながものがたり』が、読んでくださる方にとって、自分のまちのまだ知らない魅力を発見するきっかけになればうれしいです。



坂道 あるある?!



編集後記

取材を通して感じたのは、建物を直すこと以上に、人の思いやつながりが少しずつすりぬけられてきているということでした。空き家だった場所に明かりが灯るまでには、誰かの挑戦や小さな勇気があります。福井さんの活動や、住宅街のコーヒー店、たばこ屋のおばあちゃん。出会った人たちは、それぞれの形でまちに色を加えています。取材で出会った人々と音楽を通じて再びつながる場面もあり、まちの変化が穏やかに続いているのを感じます。これからも、そんな物語を言葉で伝えていきたいです。

【公式】Instagramで日々の活動を投稿中!

